

学校を発信地とした総合型地域スポーツクラブ —「しずおか型地域スポーツクラブ」、竜爪 CSC 活動—

中澤 純一
(静岡大学大学院)
青木かよ子
(静岡大学大学院)

【要旨】

文部省（現文部科学省）では、平成 12 年 9 月に「スポーツ振興基本計画」を策定し、公表した。この基本計画の中では、我が国における生涯スポーツの実現にむけ、新たな試みとして総合型地域スポーツクラブを構築するといった主旨が読み取れる。これを受け、静岡県でも総合型地域スポーツクラブの振興・普及を図るため独自に「しずおか型地域スポーツクラブ」を提唱した。静岡県では行政の取り組みの成果もあって年々各地域で総合型地域スポーツクラブの立ち上げが見られる。

本稿では、筆者がかかわっている静岡県静岡市の事例「竜爪中学校区 CSC 活動」の成果や課題を静岡県の現状も含めまとめたものである。特に、竜爪中学校区 CSC 活動においては、平成 13 年 5 月の基本構想の立案から平成 15 年度の活動までを中心としてまとめている。

1.はじめに

我が国のスポーツ活動はこれまで民間のスポーツクラブやスポーツ少年団、企業や学校の運動部等が中心となって発展してきた。しかし、これらの活動は異なった種目や世代間での交流が欠如し限られたメンバーで行われてきた。さらにこれらの活動の多くは行政の主導によるスポーツの普及と振興を目指して進められてきた。しかし、今日生涯スポーツの概念が広まる中で健康保持増進のために子どもから高齢者までをも含めて多くの人々がスポーツに取り組み、また、一生涯を通してスポーツに親しもうと考える人が増えてきた。このことは特定のスポーツに、限られた人が参加するのではなく、幅広い年齢層の人々が健康保持増進のためやコミュニティーにおける仲間づくりの場として、生涯に渡って継続的に続けることが可能なスポーツ環境が求められていることを示している。

このような国民の声の高まりと、21 世紀のスポーツを体系的、計画的に進めるため、平成 12 年 9 月、文部省（現文部科学省）は「スポーツ振興基本計画」を策定した。政策目標の中では「(1)国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。(2)その目標として、できるかぎり早期に、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率が 2 人に 1 人（50 パーセント）となることを目指す。」ことが示されている。そしてこれらの政策目標達成のために総合型地域スポーツクラブの育成が主要事業として提示された。現在この総合型地域スポーツクラブには多くの期待と関心が寄せられている。

学校教育においては、平成 14 年度から導入された学校週 5 日制により児童生徒の自由

な時間が増え、どの様にその時間を過ごすかをめぐって保護者の関心と不安が大きく膨らんでいる。また部活動においては少子化と教職員の高齢化に伴い、部活動を指導できる教員が減少し、部活動数が減少傾向にあるといった問題が生じてきている。

社会教育においては、今日の健康志向への強い要求と相まって、高齢化社会が進みつつある中で、高齢者の自由な時間をどの様にして有効に活用するかといった余暇時間の活用等に関わって様々な試みがなされるとともに各種の要望等が顕在化してきている。

その様な背景から総合型地域スポーツクラブの実施はこれらの様々な問題の解決の鍵となるものとして期待されているのである。文部科学省による総合型地域スポーツクラブの説明は次の様にまとめることができる。「総合型」とは、次の3つの多様性を包含していることを指している。すなわち、① 種目の多様性、② 世代や年齢の多様性、③ 技術レベルの多様性である。また、こうした多様性をもちながら、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個々人のニーズに応じた活動が、質の高い指導者のもとに行えるスポーツクラブであり、地域に根ざした活動を目指している。ここでの「地域」とは、会員が自転車等で無理なく日常的に通うことのできる範囲であり、中学校区内で活動を展開することが望ましい。

このような文部科学省（国）が提唱する総合型地域スポーツクラブをうけ、静岡県でも総合型地域スポーツクラブの普及のために、『しずおか型地域スポーツクラブ』といった新たな試みが展開されている。次節ではこの『しずおか型地域スポーツクラブ』を静岡県におけるスポーツ面での現状に触れながら、その課題について着目し検討する。

2. 静岡県の現状と『しずおか型地域スポーツクラブ』

静岡県教育委員会では、地域におけるスポーツの振興と地域の活性化及び青少年の健全育成を図るために、スポーツ少年団や学校運動部活動等の既存のスポーツ組織を母体とした「しずおか型地域スポーツクラブ」の育成を進めている。この考えは、平成14年4月に提示された静岡県総合計画の「魅力ある“しずおか”2010年戦略プラン—富国有徳、しずおかの挑戦—」の中に述べられており、魅力あるスポーツ文化づくり推進の施策の方向として「地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成の支援に努める」と唱ってある。この考えを元に総合型地域スポーツクラブの取り組みが始まっている。

まず始めに、ここでは「竜爪 CSC 活動」を支援している静岡県の取り組み状況を探ってみる。

(1) 静岡県におけるスポーツの現状

①静岡県内には74の市町村があるが、平成14年の時点では、4市町村で育成中か、或いは育成済みである。また、中学校は273校の内、10クラブが育成済みか育成中である。その割合は、3.66%であった。

②静岡県では、表1に示す通りスポーツ少年団や学校の部活動など現在あるスポーツ組織の活動を核として、それぞれの地域に合わせた「総合型地域スポーツクラブ」の育成が進められている。

③学校の運動部の活動面からみると、生徒が減少する中で、中学校の部活の部員数も少なくなってきた。そして、少子化と連動して新規の教員の採用が減り、その結果として、部活動の指導者の高齢化が進んだ。表2からも推察できるように指導者数は減少し、反対

に主顧問の平均年齢は年々上がっている。また、静岡県教育委員会体育保健課でまとめた「静岡県中学校体育連盟」のデータによると、運動部の部活動数は、平成13年から14年にかけては、67の部活が新設されたが、一方で、廃止された部活動数は、86であった。したがって、19クラブがなくなったことになる。廃止された主な部活は、剣道が9、バスケットが4、卓球が4等である。因みに、静岡市立竜爪中学校では、水泳部や陸上部が廃止された。次に、表2に示すように主顧問（指導者）の数は、平成10年では、2,862人、平成11年では、2,802人と少なくなった。従って60人余りの主顧問が減ったことになる。また、平成12年では、主顧問の数は2,753人になり、前の年に比べて、49人減った。さらに、主顧問の平均年齢を年ごとに比較してみると、平成10年では35.8歳、平成12年では37.1歳であり、前年に比べると+1.3歳、平成12年には、38.7歳で、+1.6歳である。

スポーツ少年団（以下スポ少に略）に関しても、少子化の波が顕著にみられる。このことは表3からも推測することができる。スポ少の登録人数は、平成7年は38,281人であったが、平成14年には34,280人に減少した。約4,000人ももの団員数が減ったことになる。

④地域のスポーツにおいては、一つの地域では単一種目のスポーツしか、組織的に行われていないという傾向が顕著である。即ち、地域によって普及しているスポーツは異なるという状況がみられる。例えば、野球がしたくても、その地域に野球チームがなく、別のスポーツができず、本当に自分がやりたいスポーツができないという現状がみられる。

表1. 静岡県内のクラブの育成状況

静岡県	市町村の数	クラブ育成中(育成済)	育成の割合
	74	4	0.05%
中学校区	クラブ育成中(育成済)	育成の割合	
	273	10	3.66%

(静岡県教育委員会スポーツ振興室)

表2. 指導者数と主顧問の平均年齢の推移

	H10	H11	H12
指導者数(主顧問)	2,862人	2,802人	2,753人
主顧問の平均年齢	35.8歳	37.1歳	38.7歳

表3. 児童数とスポ少登録人数の推移

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
児童数	263,654	255,786	247,272	241,102	234,657	228,771	225,561	222,327	218,843
登録人数	38,281	37,333	35,314	34,064	34,354	33,976	33,976	34,280	34,822

(静岡県教育委員会体育保健課)

(2) 「しずおか型地域スポーツクラブ」

静岡県教育委員会スポーツ振興室では「しずおか型地域スポーツクラブ」を「各地域の特性や資源（人材、施設等）を生かし、既存のスポーツ活動を続けながら、地域住民が主体となって運営し、誰もが楽しめる地域スポーツクラブ」と定義している。

学校施設の開放率についてみると以下のようなものである。平成15年7月に行われた静岡県教育委員会社会教育課の調査による「地域に開かれた学校づくり」に関する調査集計結果によると、小学校537校、中学校271校、高校100校、公立盲聾養護学校20校、市立高校6校の総数934校のうち、運動場、体育館、武道場などの体育施設について、開放できる状況にあるのが、826施設であり、全体の88.4%を占めている。また、利用実績は、881施設であり、94.3%と高い割合を示している。さらに、普通教室や特別教室等をのうち、教室が開放できる状況にあるのが、463施設であり、49.6%を占めている。これらの利用実

績は、572 施設であり、その率は 61.2%である。なお、一つの学校で一つの体育施設や一つの教室を意味するのではなく、開放している施設は複数あり、例えば体育館と校庭、音楽室と家庭科室などが開放できる状況にあれば、4つとカウントされている。

更に、施設開放については、「静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱」が、平成 13 年 1 月に制定し、これをもとにしてそれぞれの県立学校が独自の要綱を定めている。市町村立の小・中・高校についても、各市町村の教育委員会が定める要綱に基づいて施設開放がすすめられている。因みに、平成 14 年 10 月に出された全国市町村 3,241 自治体を対象にした小・中学校の開放状況をみると、学校開放実施率は全体で、小学校が 78.6%であり、中学校が 55.4%である。教室の開放率は、小学校が 17.5%、中学校が 11.3%を示している。また体育施設の開放率は、小学校が 68.2%、中学校が 47.8%であり、これらと比較すると、静岡県の学校開放率は高いといえる。このことにも、静岡県教育委員会が「しずおか型地域スポーツクラブ」を育成していく積極的な姿勢がうかがわれる。

「地域の特性」に関しては、地域のもつ「よさ」を生かすことが重要であり、「人材」や「もの」「お金」などの三つの点から捉えることができる。「人材」については、クラブの会員は日常生活をここで営む地域住民に参加意欲が強いこと・指導者が大勢いること・その指導者は多世代に渡っていること等が重要である。「もの」は施設であり、多くの場合は地域の公共施設や学校施設が利用しやすいか否かを示している。「お金」については、会費や補助金、助成金などの財源が確保しやすいかどうかである。これらのことが具体的に考えられなければならない。

さらに、「しずおか型地域スポーツクラブ」に必要な要件は、「多項目型クラブ」「多世代型クラブ」「多目的指向型クラブ」であることにある。そして、いずれかの条件の一つでも満たしていることが「しずおか型地域スポーツクラブ」の特徴である。なお「多項目型」とは色々な種目やプログラムが楽しめるクラブのことであり、また、「多世代型」とは子どもから高齢者に至るまでの幅広い年齢層の人が楽しめるクラブのことであり、さらに、「多目的指向型」とは、スポーツ競技に勝つことだけでなく、クラブに参加してその楽しさを十分に味わうことや、「ウォーキング」や「太極拳」などのように健康維持を目的とするなど、多様な目的が含まれていることを示している。

また、住民の自主運営を基本としていることも「しずおか型地域スポーツクラブ」においては重要である。そして、行政の補助金や各種機関からの助成金に頼らなくても、このスポーツクラブが会費からの収入で活動を繰り広げることができることである。このように、住民同士がお互いのもつ力を出し合って、行政の力を借りずにクラブを運営することが重要であることがわかる。

以上のことから「しずおか型地域スポーツクラブ」とは「いつでも」そこに指導者がいて、やりたい種目を楽しむことができる。年齢や性別、技術等に関係なく「だれでも」がスポーツを楽しむことができる。そして、子どもから高齢者まで生涯に渡って「いつまでも」スポーツ活動を楽しむことができる。」を意味している。

3. 竜爪 CSC 活動

(1) 瀬名の特徴

静岡県静岡市瀬名に属する竜爪地区は、静岡市のシンボルともいえる竜爪山の支脈に抱

かれた長尾川東岸流域に開けている地区のことである。また、この地区には常葉学園大学をはじめとして、小学校から大学までの各種の学校（静岡市立西奈小学校、北沼上小学校、私立橋小学校、静岡市立西奈中学校、竜爪中学校、私立橋中・高等学校など）が点在し、多数の市民が住む学園都市を形成している。平成 15 年に静岡市と清水市が合併し、この地区は市街地の中心位置を占めることになった。そして、現在は大規模小売店舗の進出をはじめとして、急速に都市化が進んでいる。この竜爪中学校区には学校教育・社会教育に関心が高く、それらの教育に支援と協力の労を惜しまない多くの地域住民が居住しており、恵まれた教育環境でもあるといえる。

(2) 竜爪中学校区の説明

竜爪中学校区は、静岡市立西奈小学校、北沼上小学校、千代田東小学校の 3 つの小学校区から構成されている。そこで、これらの 3 つの小学校区の人口を平成 15 年 4 月のデータからみると、まず西奈小学校区の総人口は 13,668 人であり、その内 15 歳未満の人口は、1,079 人で、65 歳以上の人口は 1,065 人である。また、北沼上小学校区の総人口は 1,475 人であり、その内 15 歳未満の人口は 75 で、65 歳以上の人口は 255 人である。そして、千代田東小学校区は総人口が 14,621 人であり、その内 15 歳未満の人口は 1,012 人で、65 歳未満の人口は 1,416 である。さらにこの 3 学校区の総人口は、29,674 人、15 歳以上の人口は 2,166 人で、65 歳未満の人口は 2,736 人である。

(3) 竜爪 C S C 活動とは何か

正式名称は「竜爪中学校区 C S C 活動」である。日常的には「竜爪 C S C 活動」と親しみやすく呼ばれている。「C S C」とは「Culture」の「C」、「Sports」の「S」、「Club」の「C」の頭文字を取って組み合わせた名称である。

竜爪 C S C 活動を構想する際の当初の活動目的は、次の 3 点である。(1)「地域における生涯学習（スポーツ活動・文化活動）の推進と健康の増進」(2)「総合型地域スポーツクラブの設置・活動による地域活性化と青少年健全育成」(3)「部活動顧問と地域住民の協力による部活動指導体制づくり」である。現在、展開されている竜爪 C S C 活動では、その活動目的を文化・スポーツ・イベント活動を通じて地域住民のコミュニケーションの輪を広げ、「明るく豊かな街づくりの実現」と「地域で子どもを育てていく場」として捉えている。

(4) 竜爪 C S C 活動誕生の経緯と背景

静岡県の中学校では生徒数が減少し、教員の新規採用が減少したために部活動の顧問が高齢化し、部活動の数が減少した。このような現状は平成 13 年 4 月、竜爪中学校にも同様に生じていた。竜爪中学校では、部活動の顧問が中々決まらずに、部活の指導が不十分なままの状態が続いていた。当時、教職員の平均年齢は 43 歳で、20 代の教員はおらず、部活動を専門的に指導できる教員も減少傾向にあった。静岡県内の他の中学校も同様であった。従って、竜爪中学校でも他校と同様に数年かけ部活動の数を縮小する動きが進んでいた。しかし、平成 13 年 4 月に赴任してきた坂本英文校長（平成 16 年 3 月退職）には、「生徒には十分な指導を与えたいという思い」や「保護者や生徒の部活動を盛んにして欲しいという思い」があった。この気持ちから竜爪 C S C 活動が生み出されたのである。

このような状況の中で、平成 13 年 5 月には竜爪中学校区 C S C 活動の基本構想計画案と設置要項の素案の作成が始まった。この 1 年 4 ヶ月後に C S C 活動が試行されたが、その過程に至るまでの組織作りに関しては、表 4 の示す通りである。坂本校長は他県にも視察

をして、何度も竜爪CSC活動の構想を練り直した。また、竜爪中学校教職員、学区内の3つの小学校、小・中学校のPTA、連合町内会、行政などと説明会と検討会を重ねた。そして、地域住民と一体になって竜爪中学校区CSC準備委員会を開くに至り、試みに各種体験講座も実施された。このようにして、竜爪CSCは、「学校側の篤い思い」と「地域の住民の協力」や「静岡県・静岡市の行政施策」と一致し、準備が進められた。そして、ついに平成14年度、国（文部科学省）が提唱する「総合型地域スポーツクラブ」のモデル事業として、静岡市から指定を受け平成15年4月から竜爪CSC活動が始まったのである。

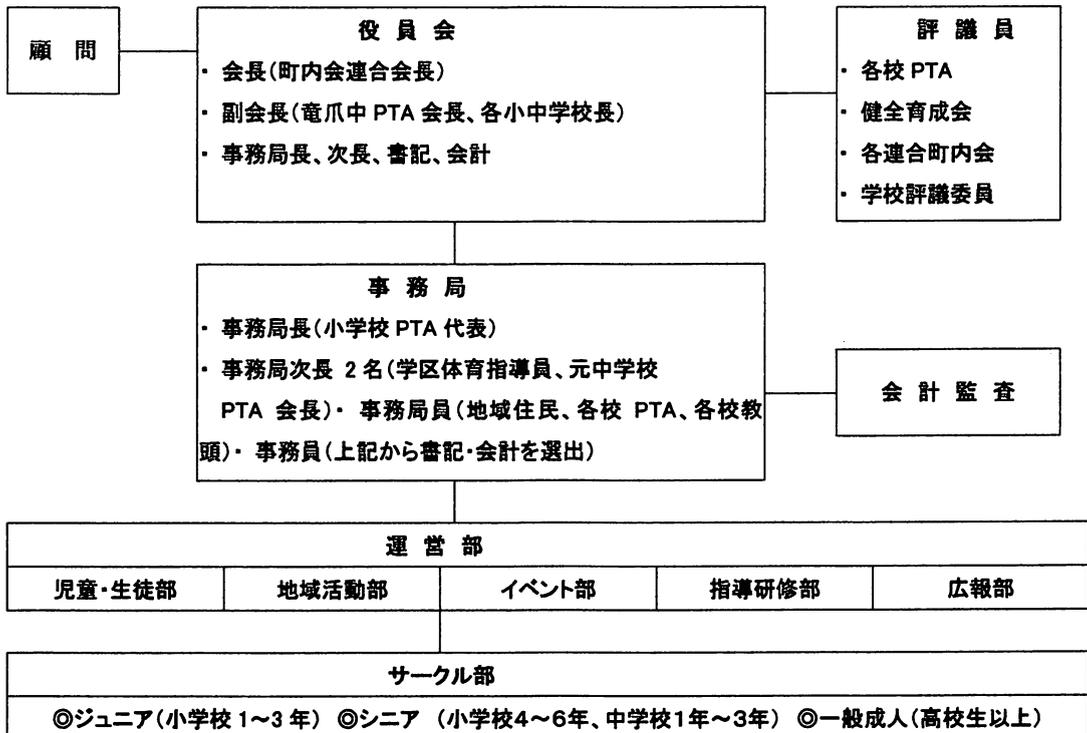
表4. 竜爪中学校区CSC活動実施までの経緯

年	月	内 容	
13	5	・CSC活動の基本構想の立案及び設置要項素案の作成。	
	7	・PTA三役・運営委員幹部にCSC活動について説明。検討委員会の設置を了承。	
	9	・市スポーツ振興課に協力を要請。了承。	
	10		・竜爪中職員にCSC活動について説明。了承。
			・PTA臨時運営委員会を開催しCSC活動について説明。了承。
			・学区内小学校校長にCSC活動について説明し、協力を依頼。
	11	・竜爪中学校地域フォーラムにおいてCSC活動について説明し、協力を依頼。	
	12	・第1回CSC活動検討会の開催。・第2回検討委員会の開催。	
	14	1	・第3回検討委員会の開催。CSC活動の立ち上げについて了承。
		2	・第4回検討委員会の開催。次回から検討委員会を準備委員会に格上げ決定。
		3	・第1回CSC活動準備会の開催。活動の概要の説明及び今後の課題について。
		4	・第2回準備委員会の開催。児童生徒部、地域活動部、イベント部、研修部の設置と準備委員の5部への所属の決定。
5		・第3回準備委員会の開催。・各部会ごとの検討開始。	
7		・第5回準備委員会の開催。・第1回スポーツ少年団指導者との話し合い。 ・第6回準備委員会の開催。・CSC活動の立ち上げと9月からの児童生徒部の体験活動実施について3連合町内会長、健全育成会長、各校長等の了承を得る。	
7-8		・各小学校を回りCSC活動について説明し、協力を依頼。	
9		・CSC活動指導員の募集開始。・第1回ジュニア（卓球、バレーボール）コース開催。	
10		・第2回スポーツ少指導者との話し合い。・第1回シニアコース（墨絵、バスケット）開催。・第1回イベント（竹炭作り）開催。・各部活動の父母にCSC会費納入の依頼。・第2回シニアコース（吹奏楽、ソフトテニス）開催。・静岡市退職校長会に指導員、スタッフ等の応募依頼。	
11		・第3回シニアコース（剣道、サッカー）開催。・第10回準備会開催。・第2回イベント（ふるさとウォーク）開催。・CSC活動発起人会・第3回ジュニアコース（吹奏楽・竜爪太鼓・キッズ英会話・おもしろ理科実験）開催。・第3回イベント（絵手紙入門）開催。	
12		・第5回シニアコース（バレーボール・演劇）開催。CSC活動評議員会・第1回実行委員会・事務局会・クリスマスフェスティバル、第1回コミュニケーション講座	
15		1	・第2回事務局会・実行委員会・第4回ジュニアコース（バレーボール・卓球）開催。・第3回事務局会・第7回シニアコース（卓球）開催。・第4回事務局会・竜爪CSC活動設立大会
15	4	・竜爪CSC活動本格実施	

(5)組織

表5が示すように、「竜爪CSC活動」の組織は、顧問、役員会、評議員会、事務局、会計監査、運営部である。事務局では、運営に関わる経費や会員から入された会費、保険料等を管理している。組織の構成員は、町内会の関係者、PTA、地域住民であり、総勢約50人からなる。定期的に事務局主催の運営委員会が開かれ、各月の事業計画、予算、役員などクラブ運営全般に関わる事柄を協議し、運営部に置かれた5つの部会が各種事業の企画運営が円滑に行われるよう検討している。

表5. 平成15年度竜爪CSC活動組織図



(6)クラブの現状

平成15年6月から11月にかけて会員数の推移を調査した。その結果、11月末は871名であった。その内訳は、高校生以上の一般会員が372名、ジュニアと呼ばれる小学1年生から3年生が71名、シニアと呼ばれる小学4年生から6年生は、80名で、中学生は348名であった。集計を取り始めた6月は706名、7月は805名、8月は825名、9月は830名、10月は854名、11月は871名と毎月増え続けていった。年度の最終月の平成16年3月においても会員数は変化がみられず875名であった。発足当初の会員数の目標は1000名であったが、数値目標に近づきつつある。よって、平成16年度における課題の一つとして会員獲得が挙げられる。

次に、会員の対象は、竜爪中学校区に住む地域住民である。活動場所は、竜爪中学校、西奈小学校、北沼上小学校、千代田東小学校の体育施設、教室等である。施設がこの様に利用できるのも、静岡県内の学校の開放率が高いという特色によるものである

次に、会費についてみる。具体的には1年間に納める金額は、中学生・高校生以上の一般が3000円、小学生が2000円、60歳以上のシルバーが2000円、家族会員のファミリー

一が8000円、団体が一人2000円である。但し、年会費と別に、保険料を徴収するが、入会金等の経費はかからない。この様に会員からの会費と静岡市・TOTOからの補助金等で竜爪CSC活動は自主運営を行っている。

(7)組織

運営部の組織は前述の表5で示した通り、児童生徒部、地域活動部、イベント部、指導研修部、広報部の5つの部から構成されている。筆者は事務局員としてこの中の広報部を担当し、また児童生徒部の地域指導者の一員として活動している。この5つの部の具体的な活動を紹介していく。

①児童生徒部、ジュニアコースの活動の目的は、「みんなで楽しくスポーツをすることを通して、仲間作りや体力作りをする」である。活動の対象者は、小学校1年生から3年生の児童である。活動の内容は、ニュースポーツやレクリエーションで使用する器具等を使って、ゲームや体操をしたり、ドッチボール、氷おに、二人三脚等の色々な遊びや簡単なゲームを行っている。これらの活動を通してスポーツに触れ合う楽しさや学童期に身に付けておきたいスポーツの基礎を体感する。このジュニアコースの活動を支える地域指導者は、静岡県レクリエーション協会で経験を積んだ竜爪中学校の保護者、レクリエーションインストラクター資格を有する大学院生、将来教員を目指す大学生、小中学生の子どもを持つ保護者を含め8名いる。その様な環境の中で、総勢60名余のジュニア会員が活動に取り組んでいる。

②児童生徒部、シニアコースの活動の目的は、以下の3点である。「スポーツ・文化活動に多くの大人が関わり、家庭・地域・学校が一体となって教育にあたり、青少年の健全育成を図る」や「子供達に多くのスポーツ・文化活動を体験させ、生涯学習の場を広げる」や「競技スポーツを目指す子が優れた指導者の継続的な指導を受けることにより、クラブが誇れる優秀な選手を育てる」である。活動の対象者は、中学生と小学校4年生から6年生までである。活動の内容は、竜爪中学校の部活を基盤にして、野球、サッカー、柔道、剣道、テニス、卓球、バスケットボール、バレーボール、吹奏楽、美術がある。これらの活動の指導者は部活の顧問と地域住民の指導員、大学生があたっている。

③地域活動部では、活動の目的は「中学校を拠点として、より一層の地域住民同士のコミュニケーションを図る」である。活動の対象者は、高校生以上の一般成人であり、内容によっては児童生徒を含む。活動の内容は、CSCの願いにもある様に、スポーツ活動と文化活動を2つの大きな柱に分かれる。スポーツ活動とは、バルーンバレー、インディアカ、トリムバレー、テニス、バトミントン、グラウンドゴルフ、フィットネス、太極拳などの12種類である。文化活動とは、定期的に活動しているフォークソングサークルや、講座制のコミュニケーション講座、絵手紙教室、健康講座姿勢について、樹脂粘土講座などである。

④指導研修部においては、活動の目標は次の2点である。「サークルや教室に必要な指導者を養成するとともに研修を通して質の向上を図る」や「指導者の割振りや謝金支払い等が円滑に行なわれるよう調整する」である。活動の内容は、指導者募集、研修会・講習会の実施、指導割振り表の作成、指導実績簿の作成、謝金支払い事務、指導員証の作成、指導種目別顔写真入りの指導員一覧表作成である。

⑤広報部の活動目的は次の2点である。「竜爪CSC活動の趣旨や内容等を指導員募集パンフレットや会員募集パンフレットにより、地域の人たちに周知する」や「活動状況を地域住民や地域外の人たちに広報したり、他のクラブの情報を収集したりして、よりよいクラブづくりに資する」である。活動の内容は、指導員募集、会員募集等のパンフレット作成と、竜爪CSCだよりの編集・発行である。広報部での筆者の担当はCSCだよりの編集・発行である。竜爪CSCだよりはクラブ会員に活動の中で配布し、地域住民には町内の回覧板で回し、小中学校に設置されたCSC専用の掲示板や地域の農協や信用金庫に掲示している。竜爪CSCだよりは、日頃の活動状況や情報をクラブ会員や町内会の住民に月一回発行している。

4. 「しずおか型地域スポーツクラブ」からみる「竜爪中学校区CSC活動」の考察

「しずおか型地域スポーツクラブ」と「竜爪CSC活動」を照らし合わせ共通する部分を考察し、次の6点を挙げるができる。

①教員が高齢化しても、または、教員数が減っても、将来に渡って、生徒は部活動が保障される。そして、自分のやりたいスポーツに取り組むことができる。

②小学生や中学生に限らず、保護者や竜爪中学校区の地域住民が活動に参加できる多世代型クラブである。また、指導者には教員だけでなく保護者や地域の人々が関わっている。特に、この竜爪中学校区の特徴として、常葉学園大学や静岡大学の大学生や大学院生が指導者として関わっていることが挙げられる。また、筆者は指導者としてのみならず、事務局員として、広報担当の役割を担い、毎月竜爪CSC便りを発行している。さらに、この便りを発行するに当たっては、高校生と大学生の子どもを持つ保護者と一緒に取材をし、原稿を書いている。この様な活動においても、世代を超えたつながりが存在している。

③保護者や地域の人々が指導員として活動し、会員となって小・中学生などと一緒に活動することにより、子どもたちを地域住民が暖かく見守り育てていくことにもつながる。そして、児童・生徒の健全育成に大きく貢献している。この場合、地域の人々の中には、高齢者は無論のこと、そこに暮らす大学生や若者、中年世代など多くの世代が含まれる。

④活動の内容は、気軽に親しむことのできる運動に限らず、文化活動まで活動の輪を広げている。これは、地域住民にとっては生涯に渡って活動できる場ともなり、このことが地域の活性化や発展に大きく寄与しているのである。

⑤小学生においては、希望すれば、中学生になっても続けて部活動に参加できる。更に、今まで受けてきた指導と異なる指導を受けることもない。従って、小・中学校を通して同じ指導者から指導を受けるので、スポーツ本来が持つ楽しさを十分に体感できる。

⑥活動の内容は、競技スポーツに偏ってはいない。「ウォーキング」や「太極拳」などの健康を保持・増進することを目的としたスポーツにまで活動の幅を押し広げている。そのことが、地域の生涯スポーツの場ともなるといえよう。

5. おわりに

本報告は、学校を発信地とした総合型地域スポーツクラブについて考えた際の筆者の身近な事例の一つである。しかし、おわりにかえて「竜爪中学校区CSC活動」における今後の課題を5点挙げ、本報告の考察とする。

①クラブハウスの活用である。クラブハウスは、平成 15 年の 7 月 25 日に、竜爪中学校の木工室の奥に設置された。活動を支える事務拠点となるクラブハウスのより一層の活用が望まれる。

②クラブの運営が健全に行われるためには、財源を確保することが大切である。財源が不足するため、クラブに関わる様々な人々は、知恵を寄せ合い、活動しながら考えたり進めたりしている。学校施設を十分に利用し、備品も借りることができた。また、家庭で眠っている品物の寄付を受けたり、借りたりすることで、既存の物を利用した。今後、財源を確保する意味でも、地域住民の 1 割にあたる人々を会員として活動に参加する方向で考えている。そのためにも、広報活動により会員募集に力を注ぐ事が求められるのである。

③クラブの指導者やマネージャーなどの人材を確保し、その育成にも力を注ぐことが重要である。指導者には、県や市町村単位で開かれる「指導者養成講座」へ積極的に参加するように促している。また、地域に眠っている人材を掘り起こし、クラブの活動に参加できる人の輪を広げている。一方で、人と人をつなぐクラブマネージャーを確保し、運営が円滑に行われるように検討していく必要がある。

④この様に学校が発信地となり地域を巻き込んだ活動は、竜爪 C S C 活動のみならず、各地域で多くの総合型地域スポーツクラブが立ち上がることを切望する。竜爪 C S C 活動に大きな尽力を注いでいる学校教職員も地域に戻れば、一住民である。自分が勤務する中学校区の総合型地域スポーツクラブで活躍するのは無論のこと、自分の住む地域にある総合型地域スポーツクラブで一住民として活躍することが望まれる。

⑤この様な地域を巻き込んだ活動は、筆者が唱える“トップ・ダウン型”の活動、つまり、行政から地域におろされた活動を展開することよりも、“ボトム・アップ型”の活動、つまり、竜爪 C S C 活動のように学校と地域がクラブの必要性に気付き、密接に連携し、熱意とやる気をもって行政に働きかけることの方がより継続されると考える。

参考文献

- 1) 文部科学省編 『「総合型地域スポーツクラブ」育成マニュアル クラブづくりの 4 つのドア』, 文部科学省 2002.
- 2) 日本体育・スポーツ経営学会編 『テキスト 総合型地域スポーツクラブ』, 2002.
- 3) 黒須充 水上博司(編著) 『ジグソーパズルで考える 総合型地域スポーツクラブ』, 2002.
- 4) 静岡県教育委員会スポーツ振興室 『平成 15 年度 静岡県クラブマネージャー養成講習会 資料』, 2003.
- 5) 静岡県 『魅力ある“しずおか” 2010 年戦略プラン—富国有徳、しずおかの挑戦—』, 2002.
- 6) 拙著 『学校を核とした総合型地域スポーツクラブ～「しずおか型地域スポーツクラブ」、竜爪 C S C 活動の事例から～』, 2003 日本生涯教育学会第 24 回大会 実践事例研究会 発表資料.

※ 本稿の執筆については、「1.」及び「2.」は青木かよ子、「3.」、「4.」及び「5.」は中澤純一が、それぞれ担当した。